

「プラスチック資源」回収の先行実施が10月からスタートします！

脱炭素社会に向け、そして令和4年に施行された「プラスチック資源循環法」によってプラスチック製容器包装だけでなく、プラスチックの資源循環が重要視されている中、横浜市は2024年10月から市内の9区(右表)でプラスチックごみの分別回収をスタートし、さらに2025年4月からは全18区で回収を実施することになっています。

新たにリサイクルが可能になったプラスチック製品と従来のプラスチック製容器包装を合わせて「プラスチック資源」としてプラスチック資源の収集日に回収することになります。プラスチック資源として出せるものは、従来どおりプラマーク[㊦]が付いているものと、一番長い辺が50cm未満のプラスチックのみでできているものになります(右図)。汚れが付いているものは固形物が残っていない程度に水ですすいでから出すようにしてください。

出すことができないものは、下図のとおりです。これらが混入していると、中間処理施設において機械が破損したり、絡まって停止してしまう原因となるほか、収集車の発煙・火災事故の発生にもつながるので注意してください。

■「プラスチック資源」の回収実施時期

令和6年
(2024年)
10月～

旭区、泉区、磯子区
金沢区、港南区、栄区
瀬谷区、戸塚区、中区

令和7年
(2025年)
4月～

全市
18区

(出典：横浜市資源循環局)

■「プラスチック資源」として出せるもの

プラスチック製品

一番長い辺が50cm未満の
プラスチックのみでできているもの



収納用品、風呂、洗面用具など



文房具、おもちゃなど



調理器具、台所用品など



← 50cm未満 →

屋外用品



その他日用品
(CDケースや緩衝材など)

プラスチック製容器包装

[㊦] このマークが目印です



(出典：横浜市資源循環局)

■「プラスチック資源」に出せないもの

プラスチック以外の
素材を含むもの



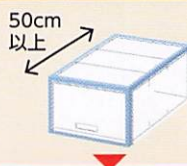
まな板など
厚みがあって固いもの



ビニールひも・シートなど、
広げると50cm以上のもの



一番長い辺が
50cm以上のもの



小型家電製品
(電気・電池で動くもの)



燃やすごみへ

粗大ごみへ

小型家電回収ボックスへ
または、燃やすゴミの日に別袋でお出ください。

(出典：横浜市資源循環局)

横浜市の新しい一般廃棄物処理基本計画 「ヨコハマ プラ5.3 (ごみ) 計画」とは？

横浜市の一般廃棄物処理基本計画が、これまでの「ヨコハマ3R夢プラン」から新しく「ヨコハマ プラ5.3 (ごみ) 計画」となっています。そこで、従来の計画から何が変わったのか、どこがポイントなのか、新しい計画について概要をご紹介します。

これまでの基本計画の概要と成果

まず、これまでの一般廃棄物処理基本計画について簡単に振り返りましょう(図1)。増え続けるごみへの対策として、「燃やすごみ」の減量を目指して2002年度に分別・リサイクルを推進する「G30プラン」が始まりました。この施策により、従来のごみはすべて焼却・埋立処分するという対策から、ごみを分別し、リサイクルできるものは資源化する方針へと方向転換することで、ごみの大幅減量を達成しました。2001年度をピークにごみの量は減り続け、2010年度には2001年度に比べて43%の減量に成功したのです。

続いて2010年度からスタートした「3R夢プラン」では、分別・リサイクルに加えて、リデュースとリユースにも取り組み、「ごみと資源の総量」を減らすことに焦点を当てました。この計画は、3Rを推進することで環境負荷の低減と循環型社会の実現を目指し、ごみの発生そのものを抑制することを目標にしました。ごみの量と資源化量はほぼ毎年減少し続け、2022年度には2009年度と比べて9%削減することができました(グラフ1)。

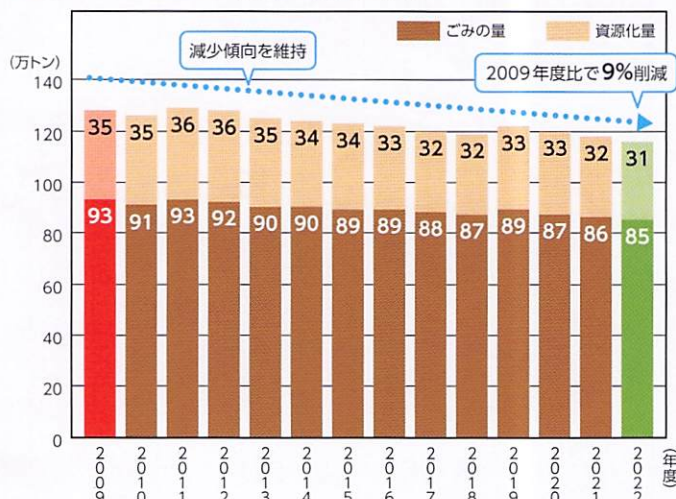
このようにごみの分別、資源化の推進、3Rの取り組みは成果を出してきましたが、課題はまだ残っており、「ヨコハマ プラ5.3 (ごみ) 計画」は、次の問題に取り組む施策となっています。

■ 図1 一般廃棄物処理基本計画の変遷



(出典：横浜市資源循環局)

■ グラフ1 ごみと資源の総量の推移

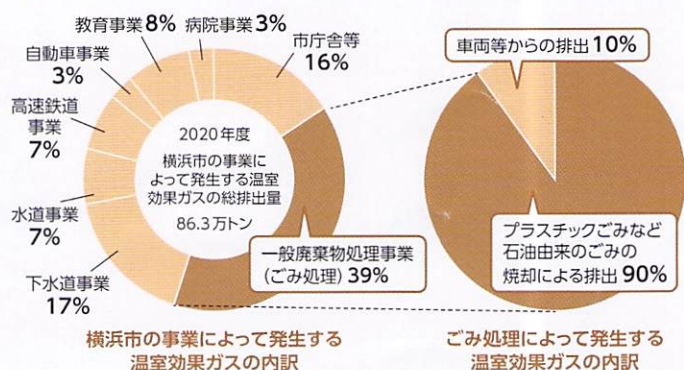


(出典：横浜市資源循環局)

「ヨコハマ プラ5.3 (ごみ) 計画」のポイント

2023年度からスタートした新計画「ヨコハマ プラ5.3 (ごみ) 計画」では、地球温暖化の原因のひとつであるCO₂の排出削減を目指しています。横浜市が行う事業によって排出される温室効果ガスのうち、約4割が廃棄物処理事業によって発生しており、さらにそのうちの約9割がプラスチックなどの石油由来のごみの焼却が原因です(グラフ2)。つまり、燃やすごみに含まれるプラスチックごみを減量することが、CO₂を削減することに直結しているわけです。そのため、「ヨコハマ プラ5.3 (ごみ) 計画」では、燃やすごみに含まれるプラスチックごみの

■ グラフ2 ごみ処理によって発生する温室効果ガス(2020年度)



(出典：横浜市資源循環局)

それ行け！ No.104
いくみちゃん♪



まち よ み
街を良く見てくみ！

フードドライブ

食品ロス削減だぞう!

あっ!このスーパー
フードドライブを
やっているくみ!

ご協力
お願いします

スーパー



フリーマーケット

お得意エコが
隠れているかもくみ！

身近な所でいろんな
活動があるくみ！



年間2万トンのプラスチックごみを横浜市民1人あたりに換算すると約5.3kgになります。基本計画の名称はこの数字からきています。では、5.3kgは実際にどれくらいの量なのでしょうか。上の写真は、プラスチック資源として出せるプラスチック製品を編集部が実際に撮影したものです。

数量は重量を合わせるために調整していますが、製品そのものはどの家庭でも使っているものばかりです(表1)。プラスチック製品は丁寧に使えば長持ちするので、一人が1年間にごみとして出す量としては、この量が多いと思うか、少ないと感じるかは意見が分かれるところです。

今年の夏も集中豪雨や異常な猛暑が頻発しています。これらは地球温暖化の影響であり、その原因

がCO2であることは皆さんもご存じのとおりです。そのため、CO2削減に直結するプラスチックごみの削減とリサイクルは、日常生活に影響する私たちの課題として取り組むことが大切です。

「SDGs未来都市・環境絵日記展2024」を開催します

環境絵日記は、毎年市内の小学生から夏休みの宿題として、「未来の横浜」について絵と文章で表現する絵日記の形式で作品を募集しています。身近な人や家族と一緒に未来の横浜を思い描き、環境のために何ができるか、どうしたら問題を解決できるかを考え、調べ、知っていただくきっかけになればと思い、活動を続けています。

昨年度で環境絵日記展は23回目となり、市内から3,902作品の応募がありました。また、市内だ

けでなく、高知県、宮城県東松島市、国外はアメリカ・サンディエゴ市、モンゴル・ウランバートル市からもご応募をいただきました。応募数は市内のみでも累計約26万作品にもなります。今年は『たのしもう！SDGs』というテーマで作品を募集しました。

今年も子どもたちの作品を11月頃にWeb展示場に掲載致しますので、「環境絵日記」で検索していただき、素敵な作品をお楽しみください。

●SDGs未来都市・環境絵日記展2024

- 11月24日(日)に横浜市役所アトリウムにて開催される「SDGs未来都市・環境絵日記展2024」において環境絵日記大賞および優秀特別賞の表彰式を開催予定。
- 楽しいワークショップやブースを多数出展予定です。
- 市役所内の展示スペースにて、11月16日(土)～24日(日)まで横浜市内の優秀賞(リサイクルデザイン賞)に選ばれた作品及び、高知県の優秀作品の展示を予定。
(※全日7時～23時半までご覧いただけます。最終日11月24日(日)は16時まで)



りくみのダブル好評発売中！

7月から販売開始となった「りくみのダブル」は、再生紙100%のダブルトレットペーパーで、芯あり、長さ60m、1ケースに48ロール入りです。しっかりした触り心地で、ぎゅっと巻かれていて長持ちします。段ボールにも、パックにも可愛らしいりくみちゃんがデザインされておりますので、ぜひ普段使いに、ご贈答用に、備蓄品に「りくみのダブル」をお試ください。



りくみのホームページが新しくなりました

7月30日に横浜市資源リサイクル事業協同組合のホームページをより見やすくリニューアルしました。パソコンからのアクセスにはシンプルで見やすい画面になり、スマートフォンやタブレットでの表示にも対応しました。これからも冊子『リサイクルデザイン』を含め、資源リサイクルに関する様々な情報を提供してまいります。

<https://www.recycledesign.or.jp>



リサイクル組合員のおススメ！

うちの地元の名物紹介

横浜市中区 焼肉 ホルモン道場 闘牛家

横浜市中区にある「焼肉 ホルモン道場 闘牛家」さんは、定番部位から希少部位まで楽しめる本格的な焼肉店。田村社長が田村商工に入社の際、父である先代社長が社員の皆さんとともに歓迎会を開いてくれたという思い出のお店です。若手経営者が集まって今後のリサイクル業界を盛り上げていきたいという目標を持つ田村社長のおすすめは、牛タンとハラミ。厚さもじゅうぶんな牛タンは、口に入れた瞬間に笑顔になる美味しさ！ハラミも油の加減が最高の一品です。ぜひご賞味ください。



有限会社田村商工(横浜市中区)

廃棄物収集運搬、非鉄金属のリサイクル事業を行う。先代社長である父が他界、一昨年社長に就任した田村さんは、まさに「まじめで熱い男」。その熱さと新規事業に敏感にアンテナを張るところは、リサイクル組合で理事を務められたお父様譲り。今後ますます活躍が期待される若手経営者です。



リサイクルデザインのバックナンバーは、ホームページからご覧いただけます。

<https://www.recycledesign.or.jp/rd/>

スマホ、タブレットなどはこちらのQRコードからアクセスできます。

